

米奥小だより

令和8年4月24日（金）

No.3

米奥小学校 校長 北添 忠

〇丸太ごいの色塗り

4月14日（火）、15日（水）の午後に、丸太ごいの色塗り作業を行いました。天気はあいにくの雨。雨をしのげる玄関前と、職員室前に張ったテントの下で作業をしました。昨年度もこの日は雨だったので、2年連続雨の日の作業となりました。15人の児童が3つの縦割り班に分かれて、上級生が下級生に教えるなど、協力して進めました。1年生ははじめての体験だったのですが、2年生以上は経験があり、それぞれ自分の描きたいイメージがあるようで、すごく速く色塗りが進んでいきました。色塗りのルールは「緑、青、赤、黄の4色を使う」「色はまぜない」「頭の赤いところと、しっぽの黄色いところは塗らない」です。このルールは、丸太を水に入れた時に、遠くからでも色鮮やかに見えるようにするためです。



米奥の子どもは外での体験が豊富で、このような活動での積極性にはいつも驚かされます。山や川などでの活動が、子どもたちの前向きな心を育てていることが見えた二日間でした。

こいのぼりの設置

天気が心配された4月18日（土）の午前、願いが通じたのか、雨はほとんど降らず、こいのぼりの設置作業を行うことができました。保護者や教員、地域の方々約30人が3つのグループに分かれて作業を行いました。一斗俵沈下橋で丸太ごいとミニこいのぼりを設置するグループ、源流大橋で不織布こ



いのぼりを設置するグループ、学校下の河原で丸太ごいを設置するグループです。それぞれの作業は約2時間で終わり、最後に学校前の河原の上にこいのぼりの川渡しを設置しました。12時頃には、児童がお弁当を食べに、河原へ下りてきて、川に浮かぶ丸太ごいや源流大橋の不織布こいのぼり、作業中の川渡しなどを見ていました。すべての作業が終わったのは午後1時近くになっていました。

米奥の春の光景として定着したこいのぼり。その様子は高知新聞に掲載され、NHK

のケーブルテレビ直送便でも放送されました。それらを見たのか、源流大橋や一斗俵沈下橋では、地域外から来た人を見かけます。その人たちに、「不織布こいのぼり、丸太ごいの中には、こどもの名前が入ったものがあります。探してみてください！」と、心の中で呼びかけています。